

29年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 2月1日～ 29年2月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	0.0	13.6	4.5
	ヒノキ	△ 6.3	31.3	37.5
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	25.0	△ 25.0
消費動向	スギ	0.0	4.5	9.1
	ヒノキ	11.1	11.1	16.7
	カラマツ	0.0	0.0	50.0
	トドマツ	25.0	50.0	25.0
在庫動向	スギ	0.0	9.1	9.1
	ヒノキ	△ 14.3	14.3	14.3
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0

・スギ製材用原木の入荷は2月の横ばいが、3月、4月はやや増加。ヒノキは2月のやや減少から、3月、4月は増加。カラマツは2月の横ばいが、3月、4月は大きく増加。トドマツは2月の横ばいが、3月は増加、4月は減少。

・スギ及びヒノキの製材用原木の消費は、総じて3ヵ月連続してやや増加。カラマツは2月、3月の横ばいが、4月は大きく増加。トドマツは3ヵ月連続して増加。

・スギ製材用原木の在庫は2月の横ばいが、3月、4月はやや増加。ヒノキは2月の減少から、3月、4月は増加。カラマツは2月の横ばいが、3月、4月は大きく増加。トドマツは3ヵ月連続して減少。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
スギ	13.6	6.8	△ 9.1
ヒノキ	△ 6.3	△ 18.8	△ 25.0
カラマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の価格は2月、3月のやや強含みが、4月はやや弱含み。ヒノキは弱含みで推移。カラマツは2月の横ばいが、3月、4月は弱含み。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)
 ・前月と状況の変化なし(北海道)。
 ・民有林からの出材を期待。フル生産だが冬期凍結、休日多く月生産量は減少、3,500m³/月(1~2月)、5,000m³/月(3月)(北海道)。
 ・スギ丸太が高い、量も少ない。需要に応じるのが大変(東北)。
 ・天候が良好で出材順調、価格も若干下落で入荷増を予想。生産は横ばい、能力一杯(関東)。
 ・入荷はほぼ一定。製材は変わらず、ヒノキは合板向けの出荷が重なり消費が多少増える。原木在庫の積み上げのため在庫は多少増加の見込み(近畿)。
 ・2月の入荷は減少する見込みでいたが、意外に多い。消費は2月は少し増やし、3月~4月は横ばい。在庫は2月~3月は増やす(中国)。
 ・入荷はスギ材よりヒノキの方が多(近畿)。
 ・地区内のヒノキ製材所が3月末で閉鎖するとのことなので、丸太供給に余裕が出てきた。スギの出材(特に柱取り用)は依然として極端に少ないため、注文が多いが挽くものがないという状態が続いている。ヒノキは入荷が順調な分、在庫も増加気味(中国)。
 ・雪の関係で出材は少ないが、春先には解消される見込み。冬期の原木消費量が増えない(九州)。
 ・期末のからみもあり、森林組合関係は特に出荷をするのでは。消費は製品の荷動き次第な所もあるが、一定期間は横ばいか、多少増産があるのでは(九州)。
 ・2月は天候不調で入荷はやや減少、3月はツイソナー1台入れ替えるため消費がやや減少(九州)。
 ・一部入荷が増加傾向にあるところもあるが、全体的にはほぼ増減なし(九州)。

(原木価格)

- ・トドマツは、全量を安定確保、価格も安定(北海道)。
- ・出荷増で価格の下落を予想(関東)。
- ・雪の影響もあり出材が減少傾向の中で、買いに対する意欲が増加のため単価が上昇(近畿)。
- ・2月をピークで少し下落すると思う(中国)。
- ・ヒノキは先行き供給が増えてくるとみて価格は抑え気味、スギは横ばい(中国)。
- ・ヒノキは横ばいから下げ基調。スギはしばらく高値が続く(九州)。
- ・高値を相変わらずキープしている。多少は落ち着くだろうが、極端に下落することはないだろう(九州)。
- ・3月後半より価格は少しづつ下がると思う(九州)。

29年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
生産動向	スギ	9.1	18.2	9.1
	ヒノキ	0.0	11.1	22.2
	カラマツ	0.0	0.0	50.0
	トドマツ	25.0	50.0	0.0
出荷動向	スギ	4.5	13.6	13.6
	ヒノキ	△ 11.1	11.1	5.6
	カラマツ	0.0	0.0	50.0
	トドマツ	25.0	50.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 10.0	5.0	5.0
	ヒノキ	0.0	0.0	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	△ 25.0

・スギ及びヒノキ製材品の生産は総じて3ヵ月連続して増加。カラマツは2月、3月の横ばいが、4月は増加。トドマツは2月、3月の増加が、4月は横ばい。

・スギ製材品の出荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは2月の減少が、3月、4月はやや増加。カラマツは2月、3月の横ばいが、4月は増加。トドマツは2月、3月の増加が、4月は横ばい。

・スギ製材品の在庫は2月の減少が、3月、4月はやや増加。ヒノキは2月、3月の横ばいが、4月はやや増加。カラマツは2月、3月の横ばいが4月は増加。トドマツは2月の減少が、3月は横ばい、4月は再び減少。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	31.8	0.0	△ 4.5
	柱角 KD12×3	27.3	0.0	△ 4.5
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	22.2	11.1	0.0
	タルキ	16.7	5.6	0.0
	間柱	20.0	10.0	△ 5.0
	ヌキ	6.3	6.3	0.0
	平割	5.6	5.6	0.0
	ラミナ	10.0	10.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	16.7	5.6	△ 11.1
	柱角 KD12×3	5.6	0.0	△ 11.1
	土台角 10.5×4	16.7	11.1	△ 5.6
	土台角 12×4	5.6	△ 5.6	△ 5.6
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	8.3	8.3	△ 8.3
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ通し柱及び桁角の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。それ以外のスギ製材品は強総じて保合ないし強含みで推移。

・ヒノキ製材品の出荷価格は通し柱を除き、総じて2月、3月の強含みが4月は弱含みに。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナの出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。トドマツサンギの出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・春先に向かって暖かくなり生産が増える。出荷は2月前半は多少落ち着くも暇という状況ではない。出荷に追われる(北海道)。
- ・スギ柱材、間柱共に販売好調。製品の引合い増で出荷も増加(関東)。
- ・稼働日並みの生産で進行。直近の注文状況は悪くないが先行きを懸念、2月の落ち込みが少なく後ろにずれているのではと想像。在庫バランスはとれており、大きな変化はない(近畿)。
- ・2月は1月並みの生産で、3月からは少し動く見込み。出荷量に応じて生産するため在庫の変動なし(中国)。
- ・スギが少ない分、ヒノキを増産している。出荷は1月中旬以降、非常に低調、3月後半くらいから出荷が回復する見込み、それまでは少しずつ在庫が積み増しになる(中国)。
- ・冬期中は生産が上がらず。2月まで堅調に出荷出来そう。3月以降、在庫が増えそうである(九州)。
- ・ピークに比べ落ち着いては来たものの、受注は例年よりは多い。地域差もあるが、未だ荷不足感あり(九州)。
- ・3月の生産は機械の入れ替えで減少、3月後半より販売は減少する。在庫は生産の減少でやや減少(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・スギは総じて横ばい、間柱は若干、下落の見通し。ヒノキは10.5cm角は販売好調、12.0cm角は不振(関東)。
- ・スギは2月に小幅の上げで世間相場は強保合となっているが、そこまでは感じない。ヒノキは品薄からの上げはあると感じる程度、当社は変化なし(近畿)。
- ・ヒノキ集成材が3月位に値上げを唱えると予想、つられてヒノキ無垢も少し値上がりすると予想(中国)。
- ・スギは全体的に4月より上昇すると考える(近畿)。
- ・スギ品不足のため値上がり傾向(スギ柱)(中国)。
- ・スギは市場相場の上昇は若干見られるが、直需(契約物件)は単価が上がらない。ヒノキは横ばいか下げ基調の傾向が見られる(九州)。
- ・スギは部材によっては価格の上昇もあるが、元々安価だったこともあり、値上げと言うより値戻ししているといったニュアンス(九州)。
- ・ヒノキは低い所で横ばいが、3月後半より少しづつ下がると思う(九州)。

29年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	100.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは2月の横ばいが、3月は増加、4月は再び横ばい。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は2月の減少が、3月は増加、4月は再び横ばい。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の在庫は2月の増加が、3月、4月は横ばい。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は2月の強含みが、3月、4月は横ばい。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータ丸太の入荷、消費及び在庫に変化はない(中国)。

(原木価格動向)

- ・ラジアータ丸太の製材用原木の価格に変化はない(中国)。

29年2月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
生産動向	米マツ製材品	△ 100.0	100.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 100.0	0.0	100.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の仕入れは2月の減少が、3月は増加、4月は横ばい。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は2月の減少が、3月は横ばい、4月は増加。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ及びラジアータ製材品の在庫は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	50.0	50.0	0.0
NZ梱包材(割角)	50.0	50.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ平角、正角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

・NZ梱包材(割板・割角)の出荷価格は2月、3月の強含みが、4月は横ばい。NZ土木用材は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・ラジアータ製材品の生産、出荷及び在庫に変化はない(中国)。

(製材品出荷価格動向)

- ・ラジアータ製材品の梱包材(割板、割角)は、2月より値上げ交渉中、2,000円/m³のUP(中国)。